

佳作

父の優しさに触れて

茨城県 茨城県立下妻第一高等学校一年 倉持 雄空

この夏、私は様々な事で悩んでいた。勉強のこと、部活動のこと、学校生活のこと。しかし、私は心配させなかつたので、両親に相談できずにいた。

ある日、父が

「最近元気がないけど何かあったのか？」

と聞いてきた。私は、父を心配させまいと、

「いや、別に大丈夫だよ。」

と言った。すると、父は

「お父さんはいつだってお前の味方だよ。」

と言った。父のその言葉を聞いて、今まで我慢していた気持ちが一気に解き放たれた。私は、父に悩んでいたことを全て話した。一通り話し終わり、父が

「色々悩んでいたんだね。つらかったね。勉強でも部活でも、常に一番上を目指さなくていいんだよ。学校でクラスの人全員と友達になるなんて無理なんだから、もっと楽に考えて大丈夫なんだよ。」

と言った。私は、その言葉を聞いて涙が溢れた。父は、

私が泣き止むまで慰めてくれた。私が泣き止んだ後、父は、

「気分転換と一緒にどこか出かけようか。」
と言った。私は、

「ゲームセンターに行きたい。」
と答えた。

次の日、私は、父と一緒にゲームセンターに行った。

今まで悩んでいた事はすっかり頭から無くなって、ゲームを楽しんでいた。お昼くらいまでゲームセンターで遊んだ後、お昼ご飯を食べに行った。車でしゃぶしゃぶのお店を見つけ、そこに入った。メニューを注文した後のわくわく感は今でも覚えている。頼んだものが来て、私は、食材一つ一つをよく味わいながら食べた。肉、豆腐、野菜の全てがいつもよりおいしく感じた。父と話しながら食べるのがとても楽しかった。食べ終わって、家に帰ることにした。

父が運転する車の中で、私は、今日を振り返ってとても満足していた。すると、父がこんな話をしてくれた。

「お父さんも会社とかでストレスが溜まったら、気晴らしにラーメンを食べるんだよね。つらい時とか苦しい時においしい物を食べたり、自分の好きな事をする、気持ち軽くなるんだよ。そうすると、明日からまた頑張ろうという気持ちになるんだ。たまには自分から楽させないと体がもたないからね。だから、今お父さん

が言った事はお前にも覚えておいてほしいんだ。お前がこれから大きくなって大人になった後も、きつと助けてくれるからね。」

私は、

「うん、分かった。」

と返事をした。やっぱりお父さんはすごいなと思った。お父さんのこの言葉は、私が大人になった後もずっと覚えていようと思った。

家に着いた時、父が

「昨日は話してくれてありがとうね。」

と言った。本来は私がお礼を言わなければいけないのに、先に父から感謝されて驚いた。すると、父が

「悩んでいることを人に話すのは勇気がいるからね。よく相談してくれたね。また何かあったらいつでも相談してくれて大丈夫だよ。」

と言った。私は、

「こちらこそ、色々と相談にのってくれてありがとう。」

今日のお出かけすっごく楽しかったよ。」

と返した。うちのお父さんは、世界で一番いいお父さんだと思えた。こんなにも私のことを考えてくれるなんて、とても優しいなと思った。こんなお父さんの子供に産まれて、私はとても幸せだと思ったし、私自身が自信をもてた。

私は、この出来事をきっかけに、父を見る目が変わった。

た。いつも家族のために頑張っている父の真の優しさに触れることができて本当によかったと思っている。父が教えてくれたことは、私は一生忘れない。そして、いつか父のような優しさに溢れた素晴らしい人間になりたいと思った。